

事業番号3：バイオ燃料利用体制確立促進事業

評価者のコメント（コメントシートに記載されたコメント）

【事業の課題・問題点等】

- 現状、中途半端な取組であり、今後も継続して行うのであれば、より徹底的な国家プロジェクトとすべきである。
- 数字に基づいた緻密な検討がなされておらず、目標達成への具体的な道筋が見えない。他の方策を考えるべき。
- 普及の方法についても具体的な効果を踏まえて策定されておらず慢然と事業を進めているようにしか思えない。
- 平成29年度に確実な完了を図るための道筋が見えない。自立化できるのか疑問である。
- サービスステーションに対して普及啓発を行ったところで、E3やE10を取り扱うサービスステーションが増えるとは思えない。
- 輸入したバイオエタノールの方が安価であり、事業目的がバイオ燃料の供給拡大であるなら「沖縄」、「さとうきび」にこだわる必要はないだろう。
- 政策効果が極めて小さく、仮に成果目標を達成しても温暖化対策としての成果は極めて限定される。運輸部門のCO2削減策全体の中で優先順位を見直すべき。
- 目標未達の状況をみると、今後抜本的な改善は望めそうにない。取り扱いスタンドや消費者の啓発・普及に力を入れるだけでは普及率は伸びない。
- 経済合理性に基づいて消費者が選択できる仕組み作りが必要。それができなければ良い政策とは言えないのではないか。
- 運輸部門における即効性のあるCO2削減策として効果を発揮しているとは判断しがたい。
- 今後のビジョンも明確になっていないなかで、本事業及びそこから得られた知見なり教訓がどのように活かされていくのかが全く見えず、かなり場当たりに推進されている印象がある。
- 他地域や他の副産物における水平展開をどのように図っていくことが出来るのかを早急に検討すべき。
- バイオ燃料の普及は大変重要であるが、沖縄以外の地域の普及方法等の将来のロードマップが明確ではない。
- 燃料の多様化を進めるためには必要な事業であるので、抜本的に見直すべき。

【改善の手法や事業見直しの方向性】

- E10 対応車の普及が進むまでは E10 の供給を止める、E3 の価格をガソリン価格より下げる。
- 輸入バイオエタノールの量を拡大する。
- 事業をゼロベースで見直す必要がある。
- 一旦廃止して政策優先順位の高い他の政策に資源を集中すべきではないか。
- 成果の出ない政策（インパクトの小さい、拡大の見込めない政策）について、廃止することをためらうべきでない。
- 目標に照らして、本事業がどの程度その達成に資するものなのか、まずは目標達成手段のポリシーミックスの中での位置付けやロードマップを明確にすべき。
- 沖縄で本事業を行うことによる副次的効果（廃糖蜜の有効利用等）も含めた効果測定が必要ではないか。
- 今のままでは自立商業化は困難と考えられるため、国の支援方法や採算性を含め検討すべきである。
- 将来のロードマップをまず検討すべき。

評価結果

廃止

（廃止：4人、事業全体の抜本的改善：2人）

とりまとめコメント

目標達成への具体的な道筋が見えない。バイオ燃料の普及は大変重要であるが、今のままでは自立商業化は困難と考えられるため、国の支援方法や採算性を含め検討すべき。